

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：24302

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00348

研究課題名（和文）16世紀の社寺縁起絵巻の総合的研究

研究課題名（英文）A Comprehensive Study of 16th-Century Shaji Engi Emaki

研究代表者

本井 牧子（MOTOI, Makiko）

京都府立大学・文学部・教授

研究者番号：00410978

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本文学と美術史の研究者の協働により、16世紀の社寺縁起絵巻を、絵と詞との両面から読み解くことを目指すものである。主たる研究対象である『釈迦堂縁起』については、清涼寺の釈迦像の霊験を描いた巻六部分について注釈を作成した。注釈の過程で、依拠資料の位相が多岐にわたることが確かめられたと同時に、京都西郊の社寺縁起や物語草子などとの関連も見出されるなど、社寺縁起絵巻制作の実態解明のための新たな視座が開かれた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

『釈迦堂縁起』はこれまでカラー図版が公開されていなかったが、新規に撮影した高精細画像を利用することで、絵と詞との分析の精度を飛躍的に高めることができた。注釈においては、典拠や類話の検討といった文学的なアプローチとともに、絵の精緻な分析、寺宝の修理・移動、隣接する社寺縁起絵との比較といった美術史的な視点がもたらされたことにより、多角的な検討が可能となり、異分野の研究を統合させたあらたな読みを構築する基礎が築かれた。今後は後続の科研（基盤研究（B）『釈迦堂縁起』の総合的注釈研究）で注釈作業を継続し、将来的には注釈の成果を公刊する計画である。

研究成果の概要（英文）：As a collaborative effort between scholars of Japanese literature and art history, the present study aimed to interpret 16th-century shaji engi emaki (illustrated handscrolls (emaki) of the legends (engi) of shrines and temples (shaji)) from both the paintings and the texts. As the main subject of the study, we annotated the sixth scroll of Shakado Engi, which describes the miraculous efficacy of the statue of Shakyamuni at Seiryō-ji Temple. In the process of annotating the scroll, we found that the emaki was based on different genres of literature and paintings, and also identified examples of close connection with shaji engi of shrines and temples in western Kyoto and monogatari zoshi (short prose narratives) set in that area. These findings provide a new perspective for understanding how these shaji engi emaki were made.

研究分野：日本文学

キーワード：社寺縁起 社寺縁起絵巻 釈迦堂縁起

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、これまで軽視されがちであった絵巻の詞書の読解と、美術史の成果を活かした絵の読解とを総合的に進めようとする点を特色とする。絵と詞とによって成り立つ絵巻というメディアは、美術史のみならず、歴史、文学、思想といったさまざまな分野から注目を集めている。しかしながら、こと詞書の読解という側面に関しては、いまだ立ち後れているという印象が否めない。こういったなかで、日本文学の研究者による絵巻の詞書の全注釈(神戸説話研究会編『春日権現験記絵 注解』和泉書院、2005年)や、日本文学と美術史の研究者で構成される研究会による物語絵巻の公刊(絵詞研究会編『時雨物語絵巻の研究』臨川書店、2016年)など、詞書にも光をあてた絵巻研究が現れてきた。このような研究状況を受けて、これらの研究にかかわった日本文学のメンバーを核として、絵巻の詞書の注釈的な読解を中心的な課題とする科研「16世紀の社寺縁起絵巻に関する基礎的研究」(基盤C、代表者:本井牧子、連携研究者、柴田芳成、金光桂子、2016~2018年度、以下「先行科研」)をスタートさせた。

研究対象としては、美術史の研究の蓄積のある嵯峨清涼寺蔵『釈迦堂縁起』を中心に据え、同時代(16世紀)に制作された縁起絵巻をも視野に入れた上で検討を進めることとなった。研究を進めるうちに、成立圏の近さや絵の影響関係が指摘されていた『真如堂縁起』について、詞書のレベルでも密接な関連があることが明らかになるなど、絵と詞とを総合して検討することの重要性が再確認されることとなった。そこで、先行科研のメンバーに加えて、清涼寺釈迦像の伝承に関して研究業績を有する中川真弓、美術史の分野から縁起絵巻等の研究業績のある山本聡美、土谷真紀を研究分担者に迎えて研究組織を拡充し、新規科研費による本研究を開始した。問題意識を共有する異分野の研究者が、詞書と絵とを同時に検討しながら絵巻の総合的な注釈を試みるというこの研究体制は、本研究最大の特色といえる。

## 2. 研究の目的

本研究は、16世紀の京都において制作された社寺縁起絵巻群に着目し、そのなかから特に清涼寺に伝わる『釈迦堂縁起』を主たる研究対象として取り上げる。詞書と絵とを双方向から注釈的に読みこむ作業を基盤としつつ、先行する縁起絵巻や、『真如堂縁起』をはじめとする成立圏の近い絵巻をも参照することで、作品を総合的に読み解くことを目指した。あわせて社寺縁起絵巻制作の背景となるネットワークや知的基盤、社会的歴史的環境についてもアプローチを試みた。

## 3. 研究の方法

### (1) 16世紀の縁起絵巻関連資料調査・収集・整理・データ化

主たる研究対象である『釈迦堂縁起』については、全巻のカラー画像が公開されていなかったため、熟覧調査およびデジタル撮影を行い、データを整えた。あわせて『釈迦堂縁起』の写本・模本類をはじめ、関連のうかがわれる社寺縁起関連資料の収集も行い、研究会で共有できる体制を整えた。

### (2) 『釈迦堂縁起』の注釈的研究

科研のメンバーを中心に、日本文学と美術史の研究者からなる研究会を組織して、清涼寺安置後の釈迦像の霊験を描く巻六の輪読を進めた。日本文学研究者が詞書注釈稿を作成し、美術史研究者をも含めたメンバーの参会のもと、段ごとに検討を加えるかたちを基本とした。

### (3) 関連課題の研究

上記の詞書注釈と並行して、研究会メンバー各自の専門にもとづいた研究を進め、研究会でその成果を共有した。

## 4. 研究成果

『釈迦堂縁起』の注釈的研究については、デジタル精細画像をもとにした精読を進め、合計7回の研究会での検討を経て、巻六の本文については注釈の草稿を作成することができた。『釈迦堂縁起』の巻一から巻五については、従来から詞書作成の際にある程度まとまって参照された文献が指摘されていたが、巻六については不明な部分も多く、研究会での検討により、あらたに判明した関連資料も少なくない。これらの密接な関連のうかがわれる文献は、『沙石集』『宝物集』といった説話集から、『太平記』などの軍記、禅僧の手になる勸進帳、物語草紙や芸能など多岐にわたるものであり、それらを再構築して詞書が編まれている様相が明らかになっている。

特に洛西の西方寺の縁起や、嵯峨野を舞台とする物語草子などとの関連が指摘されたことで、

京都西郊の社寺縁起や文芸との相関という新たな視座がもたらされたことは特筆すべき成果である。この視点の必要性は、研究会メンバーの安藤秀幸による『薬師堂縁起』の紹介によって再確認されることとなった。清涼寺に隣接する嵯峨薬師寺に蔵される『薬師堂縁起』は、嵯峨天皇と弘法大師の開基伝承等を伝える美しい絵巻であるが、この『薬師堂縁起』においても、清涼寺の釈迦像伝承が意識的にとりこまれていることが報告された。あわせて絵巻に基づく絵解き用の掛幅についても紹介があり、近接する地域における縁起制作の具体相をうかがわせる例として貴重である。

一方で、先行する文献に関連話が見いだせない段のなかに、本絵巻全体の主題とも密接に関わる説話モチーフをもつ一群があることも浮かび上がってきた。代表者の本井は、本絵巻に釈迦瑞像を直に拝見することにかかわる特徴的な話型が頻出することに注目し、それらの話型が観仏経典から派生してさまざまな展開を辿ることを確認した上で、『釈迦堂縁起』と『真如堂縁起』においては、参拝の人々と尊像との宿縁を保証するものとして機能していることを指摘した。（「見えない仏 仏像の霊験を語る話型」『日本文学研究ジャーナル』10、2019年）。絵巻全体の構想にも関わると目されるこれらの説話群については、絵巻の成立を考える上でも鍵になることが予想され、その出自や成立圏についての検討を継続する予定である。

絵については分担者の土谷真紀により異国描写の図像の分析が行われた（「『釈迦堂縁起絵巻』異国場面の描写をめぐって 画囊としての絵巻」『造形のポエティカ 日本美術史を巡る新たな地平』青簡舎、2021年）。土谷は『釈迦堂縁起』における異国描写の図像について、狩野派絵巻における異国表現の特徴を検討し、本絵巻の高位の人物表現が、明代版本『釈氏源流』の人物表現をベースにしながらも、細部の表現は、初期狩野派が手掛けた仏教絵画や仏画由来の唐美人図と通底することを指摘した。さらに、詞書との対応関係について言及し、一図のなかに複数の場所や時間を表そうとする画面構成がなされていることや、段が進むことと物語内での時間経過が対応関係にあるとの指摘もなされた。絵と詞とを有機的に関連づけながら読み解くことの有効性が確認された成果である。

さらに、『釈迦堂縁起』の後世の享受の様相をうかがう一視点として、模本についての調査も進められた。研究会メンバーの松岡知華は、東京国立博物館所蔵の木挽町狩野家関連の模本を調査し、それが狩野典信の門弟を中心として製作されたものであることを明らかにした。木挽町狩野家には社寺縁起絵巻の模本が多く含まれることが知られているが、その中心となるのは狩野養信とその門下によるものである。『釈迦堂縁起』はそれより前代の模本制作の例として注目されるのみならず、近世における寺宝の模写のあり方を考える上でも興味深い例である。同じく研究会メンバーの村木桂子からは、佛教大学図書館蔵本の概要が紹介され、あわせて模本製作の場の問題にかかわって江戸期の出開帳についての報告も行われた。『釈迦堂縁起』については、その構成が開帳に供されることを意図したものであるとの指摘もあり（並木誠士「釈迦堂縁起 釈迦信仰の増幅」『美術フォーラム』15、2007年5月）本来的に開帳と結びついていた可能性もある。絵巻の具体的な機能を明らかにする意味でも、後世の開帳の場の検討は重要な課題である。

なお、2022年度の研究期間の終了に伴い、『釈迦堂縁起』全体の注釈完成を目指して新たな科研費を申請し、2023年度よりさらに研究組織を拡大した新規科研「『釈迦堂縁起』の総合的注釈研究」（基盤B、代表者：本井牧子、2023～2027年度）を得て研究を継続することが決定した。本科研で浮かび上がってきた問題を発展継承しながら『釈迦堂縁起』の総合的な読みを試みる計画である。将来的には全巻の絵と詞の注釈を完成させ、公刊することを目指したい。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計22件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 本井牧子	4. 巻 47
2. 論文標題 『日本霊異記』と仏教類書 『金蔵論』を中心として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 仏教文学	6. 最初と最後の頁 17-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 笹川 尚紀、金光 桂子、千葉 豊	4. 巻 104
2. 論文標題 <史料紹介>京都大学構内遺跡出土の和歌墨書土器	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 史林	6. 最初と最後の頁 531～545
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14989/shirin_104_4_531	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 柴田芳成	4. 巻 31
2. 論文標題 大阪府豊中市「大くもの松」伝承 伝承の活用と提示のあり方について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本語・日本文化研究	6. 最初と最後の頁 pp.1-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 中川真弓	4. 巻 66
2. 論文標題 八幡名物「定家・為家両筆」考 石清水八幡宮権別当田中宗清願文群の一つとして	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中世文学	6. 最初と最後の頁 31-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本聡美	4. 巻 118-4
2. 論文標題 愛執と発心：朽ちてゆく死体へのまなざし (特集 身体)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学燈	6. 最初と最後の頁 10-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本聡美	4. 巻 95-2
2. 論文標題 善知識としての病 古代日本における仏教美術と疫病	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 121-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本聡美	4. 巻 53-4
2. 論文標題 「鳥獣戯画」乙巻の主題と世界観：動物たちの悪心と報恩 (特集 鳥獣戯画の世界)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 123-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本聡美 (馬如慧翻訳)	4. 巻 30
2. 論文標題 試論《伴大納言絵巻》中経説的運用 伴善男宅邸中の破戒主題 (邦題：「伴大納言絵巻」における経説の利用 伴善男邸に描かれた破戒のモチーフ)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本学研究	6. 最初と最後の頁 193-211
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 山本聡美 (フランソワ=カール・グシュヴェント翻訳)	4. 巻 2020-1
2. 論文標題 De la Voie des esprits demoniaques a la Voie des titans: Reconsideration sur les peintures talismaniques (邦題: 鬼神道から阿修羅道へ 辟邪絵再考)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 PERSPECTIVE	6. 最初と最後の頁 167-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 山本聡美	4. 巻 66
2. 論文標題 疫病と美術 日本中世絵画に描かれた疫鬼	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 早稲田大学大学院 文学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 325-335
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山本聡美	4. 巻 2
2. 論文標題 発心の図像 中世仏教説話画に描かれた病と障害	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 障害史研究	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本聡美	4. 巻 772
2. 論文標題 「鳥獣戯画」乙巻の主題と世界観 動物たちの悪心と報恩	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 123-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本井牧子	4. 巻 10
2. 論文標題 見えない仏 仏像の靈験を語る話型	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 8-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本井牧子	4. 巻 -
2. 論文標題 橋弁慶伝承とその周辺 義経と弁慶との出会い	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 令和元年度洛東の文化資源共同研究会研究成果報告書	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本井牧子	4. 巻 4
2. 論文標題 判官物の古状型往来 古状で綴られる義経・弁慶の生涯	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 軍記物語講座	6. 最初と最後の頁 88-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本井牧子	4. 巻 54
2. 論文標題 義経後半生を描いた文芸 『義経奥州落絵詞』のありかたを端緒として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 説話文学研究	6. 最初と最後の頁 31-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柴田芳成	4. 巻 63
2. 論文標題 キツネの詠んだ和歌 お伽草子の作例	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 朱(伏見稲荷大社)	6. 最初と最後の頁 97-104
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川真弓	4. 巻 54
2. 論文標題 天野山金剛寺蔵 無名仏教摘句抄 の注記と典拠 中世金剛寺僧が享受した書物	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 説話文学研究	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本聡美	4. 巻 430
2. 論文標題 「妙法蓮華経变相図」(静嘉堂文庫蔵)にみる南宋時代寧波の信仰と社会	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 美術研究	6. 最初と最後の頁 49-58
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本聡美	4. 巻 65
2. 論文標題 フリーア美術館所蔵「地藏菩薩靈験記絵巻」第一話の主題 女性の罪業としての嫉妬と諍い	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 早稲田大学大学院 文学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 347-359
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 土谷真紀	4. 巻 16
2. 論文標題 京都・廬山寺蔵「金山天王寺縁起絵巻」の画風をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 お茶の水女子大学人文科学研究	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 土谷真紀	4. 巻 -
2. 論文標題 『伝心永縁起』と『寛文縁起』の画風と画面について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 浅草寺什宝研究会編『浅草寺什宝目録 第2巻 絵画編』	6. 最初と最後の頁 185-190
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計8件(うち招待講演 0件/うち国際学会 3件)

1. 発表者名 中川真弓
2. 発表標題 『菅芥集』所収願文における願主と菅原為長について
3. 学会等名 仏教文学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本聡美
2. 発表標題 横川靈山院の六道絵 『往生要集』からの飛躍
3. 学会等名 仏教文学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 本井牧子
2. 発表標題 仏教類書と『日本靈異記』と
3. 学会等名 仏教文学会2020年12月例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 本井牧子
2. 発表標題 常謹撰『地藏菩薩心験記』とその展開
3. 学会等名 中国古文献の投影と展開 日本古典文学研究の新地平 中日学術会議(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 本井牧子
2. 発表標題 絵画化されるテキストの位相
3. 学会等名 本法寺蔵「法華經曼荼羅図」の総合的研究シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本聡美
2. 発表標題 A journey to religious awakening: illnesses and pilgrimages depicted in medieval Buddhist paintings
3. 学会等名 Columbia University-Waseda University Symposium/Workshop in Japanese Literary and Visual Studies(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山本聡美
2. 発表標題 五道説から六道説への転換 中世六道絵における阿修羅圖像の成立
3. 学会等名 PMJS(Premodern Japanese Studies Network) Conference, McGill University (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本聡美
2. 発表標題 鬼神道から阿修羅道へ 辟邪絵再考
3. 学会等名 早稲田大学美術史学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計17件

1. 著者名 佐久間秀範・近本謙介・本井牧子編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 592
3. 書名 玄奘三蔵 新たなる玄奘像をもとめて	

1. 著者名 木俣元一・近本謙介編、本井牧子・山本聡美他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 728
3. 書名 宗教遺産テキスト学の創成	

1. 著者名 小助川元太・橋本正俊編、本井牧子他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 240
3. 書名 室町前期の文化・社会・宗教	

1. 著者名 京都大学和漢聯句研究会（金光桂子他）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 322
3. 書名 曼殊院蔵 和漢聯句作品集	

1. 著者名 説話と説話文学の会（柴田芳成他）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 清文堂出版	5. 総ページ数 1119
3. 書名 日本説話索引 第一巻	

1. 著者名 説話と説話文学の会（柴田芳成他）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 清文堂出版	5. 総ページ数 1093
3. 書名 日本説話索引 第二巻	

1. 著者名 説話と説話文学の会（柴田芳成他）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 清文堂出版	5. 総ページ数 954
3. 書名 日本説話索引 第三巻	

1. 著者名 京都学研究会（編） 金田章裕 本井牧子他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 238
3. 書名 京都を学ぶ【洛東編】文化資源を発掘する	

1. 著者名 吉川真司 佐藤全敏 河上麻由子 皿井舞 金光桂子 ブライアン・スタイニンガー	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 358
3. 書名 シリーズ古代史をひらく 国風文化 貴族社会のなかの「唐」と「和」	

1. 著者名 佐野みどり先生古稀記念論集刊行会（編） 土谷真紀他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 青簡舎	5. 総ページ数 1129
3. 書名 造形のポエティカ 日本美術史を巡る新たな地平	

1. 著者名 松尾韋江（編） 小林健二 本井牧子他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 花鳥社	5. 総ページ数 300
3. 書名 『軍記物語講座』第四巻「乱世を語りつく」	

1. 著者名 中山一麿監修・山崎淳編 渡辺麻里子 本井牧子他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 504
3. 書名 近世仏教資料の諸相（『寺院文献資料学の新展開』9）	

1. 著者名 中山一麿監修・落合博志編 牧野和夫 中川真弓他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 404
3. 書名 中四国諸寺院（『寺院文献資料学の新展開』5）	

1. 著者名 山本 聡美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 476
3. 書名 中世仏教絵画の図像誌	

1. 著者名 天理大学附属天理図書館、石川 透、金光 桂子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 240
3. 書名 奈良絵本集 三	

1. 著者名 天理大学附属天理図書館、石川 透、金光 桂子、齋藤 真麻理	4. 発行年 2019年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 248
3. 書名 奈良絵本集 四	

1. 著者名 天理大学附属天理図書館、石川 透、金光 桂子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 八木書店古書出版部	5. 総ページ数 266
3. 書名 奈良絵本集 五	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	金光 桂子  (Kanamitsu Keiko)  (30326243)	京都大学・文学研究科・教授   (14301)	
研究分担者	柴田 芳成  (Shibata Yoshinari)  (70448158)	大阪大学・日本語日本文化教育センター・准教授   (14401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中川 真弓 (Nakagawa Mayumi)  (20420416)	帝塚山大学・文学部・准教授  (34601)	
研究分担者	山本 聡美 (Yamamoto Satomi)  (00366999)	早稲田大学・文学学術院・教授  (32689)	
研究分担者	土谷 真紀 (Tsuchiya Maki)  (80757451)	お茶の水女子大学・基幹研究院・准教授  (12611)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関